



第13号

発行・編集 広報委員会
〒520-1821 マキノ町沢1410
TEL 27-1132
令和3年2月吉日

『ごあいさつ』



高島市老人クラブ連合会
会長 鈴木 庄十朗

令和2年度の役員改選にあたり、不肖私が引き続き「高島市老人クラブ連合会長」の役職をお引き受けることになりました。

単位クラブや会員数が激減するという、極めて厳しい時代背景の中にありまして、その責任の重さをひしひしと感じているところでございます。

また令和2年は、特に、年初に「新型コロナウイルス感染症」が世界中に蔓延し、その後も4月に、全国に「緊急事態宣言」が発表され、さらには7月に第二波、そして11月の第三波と感染はますます拡大し、未だに終息の目途は立たず、全世界に大きな影響を及ぼし大変危惧しているところで、一日も早く平穏な日々が訪れることを、心から念ずるところでございます。

会員のみなさまにおかれましては、自身のお体をご自愛頂くとともに、日常生活においても十分ご注意願ひ、ご家族皆様そろってご健康にて過ごせますよう、ご祈念申し上げます。

さて、そんな中、昨今の老人クラブ活動を振り返る状況は、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大とも相まって、極めて厳しいものがあり、特に会員数の減少に歯止めがかかれず、長年にわたり伝統的に維持されてきた「老人クラブ連合会」という組織の存続が危ぶまれ、大変憂慮すべき状況に陥っております。

しかし、この現象を止める地域にあった打開策は、未だに見出すことは出来ませんが、引き続き会員の皆様のご指導を頂き、さらなるお力添えを賜りますことを、偏にお願い申し上げます。

私も微力ながら、その先頭に立って働かせて頂きたいと思っております。

ご承知のとおり、老人クラブは、健康・友愛・奉仕を目標とした地域の組織です。日常生活においては、自分一人ではいきてゆけません。

人生百年時代の高齢期の大切な一日一日を、お互いに助け合いながら、心豊かに過ごそうではありませんか。

最後になりましたが、会員皆様のご健康にてのご活躍、そして変わらぬ深いご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。



令和2年度
高島市老人クラブ連合会

【役員・評議員名簿】

- 会長 鈴木 庄十朗 (安曇川支部長)
- 副会長 前 川 勉 (今津支部長)
- 理事 松本文男 (今津副支部長)
- 橋本恵美子 (今津副支部長兼女性代表)
- 松村良雄 (朽木支部長)
- 清川太一 (朽木副支部長)
- 玉垣多美枝 (朽木副支部長兼女性代表)
- 森本多一郎 (安曇川副支部長)
- 北 坂 修 (高島支部長)
- 山本 紘一 (高島副支部長)
- 金田百合子 (高島副支部長兼女性代表)
- 評議員 赤崎太一郎 (マキノ支部代表兼創造推進員)
- 前川 弥嗣 (今津創造推進員)
- 澤田 龍治 (朽木創造推進員)
- 竹 若 孟 (安曇川創造推進員)
- 山本 徳樹 (高島創造推進員)
- 事務局 吉原 康和 (高島市創造推進員)

老人クラブに加入して仲間とともに一緒に活動してみませんか！

想像も出来なかった、少子高齢社会が著しく加速しています。若者依存にも限界があり、特に地方では、高齢者自らが、残された人生の生き方を考えなければなりません。

そのためには、高齢者同士が互いに支え合い、また励まし合い、住み慣れた地域で共に過ごしていくことが大変重要な事です。是非、多くの仲間がいる「老人クラブ」に加入し、残された人生を、お互いに助け合い、いきいきと過ごし、生きがいと喜びのある日々を送るうちはありませんか！

●老人クラブへの入会は、

60歳以上の方ならどなたでもご入会頂けます。身近なところに、「新しい出会い」があります。老人クラブに加入すると

- 一、地域の中の同世代やいろいろな世代との交流で、新しい仲間が出来ます。
- 二、寝たきりゼロ運動やシニアスポーツ等への参加を通じ、健康の保持・増進が期待できます。
- 三、今まで培ってきた知識や経験を生かし、新しい生き方が見いだせます。
- 四、ボランティア活動等地域の社会活動への参画と貢献が出来ます。
- 五、多くの仲間が出来ることで孤独感が解消出来て、満足感・充実感など精神的な喜びを味わい暮らして行けます。

※お問い合わせは、次の老人クラブ連合会各支部までお気軽にご連絡下さい。

各事務局連絡先

マキノ支部	☎(27) 1132	FAX(27) 1129
今津支部	☎(22) 5200	FAX(22) 9056
安曇川支部	☎(32) 1944	FAX(32) 1944
高島支部	☎(36) 8185	FAX(36) 8186
朽木支部	☎(38) 2630	FAX(38) 2951

主な年間行事等

- 高島市老人クラブ連合会 理事会 5月
- 高島市老人クラブ連合会総会・研修会 6～7月
- 高島市老人クラブ連合会
グラウンドゴルフ大会 9月
- 第1ブロック グラウンドゴルフ大会 10月
大津市、高島市で輪番に担当
- 滋賀県老人クラブ大会 11～12月
場所・滋賀県文化産業交流会館
- 女性会員研修会 11月
- 高島市長との懇談会 年1回
- 高齢者相互支援活動研修会 2月
- 高島市老人クラブ連合会 理事会 3月
場所・長寿社会福祉センター

本年度の活動内容

●コロナ禍の中、

市長杯・第1ブロック交流グラウンド

ゴルフ大会を開催！

本年度は、「新型コロナウイルス感染症」蔓延のため、屋内での活動は止むおう得ず休止しましたが、屋外での活動である「グラウンドゴルフ大会」は、会員皆様のご理解とご協力を得て、感染防止対策をとりながら、規模を縮小して開催出来ました。

市長杯の大会は、昨年の9月23日(水)に、第1ブロックの大会との交流大会は、10月16日(金)に、いずれもマキノピットグラウンドグラウンドゴルフ場において、コロナ禍での「密の回避」「検温」等の感染防止に配慮しつつ開催しました。

当日は、いずれの日も、終了まで好天に恵まれ、お互いに談笑し交流を深めると共に、日頃から磨いた技術を遺憾なく発揮され、有意義な大会となりました。



「密」をさけての開会式

●老人クラブ連合会への加入促進の協議は続く！
老人クラブ連合会から脱会する「単位老人クラブ」があとを絶ちません。

このまま放置しておく、伝統ある「老人クラブ連合会」の消滅が懸念されるため、数年前より事務レベルで「活性化検討委員会」を立上げ、先進地をお邪魔したり、市担当課よりの出席を求めて協議するなど、あらゆる角度から検討を加えてきました。

本年もコロナ禍の中、毎月会議を開き、協議検討を加えています。コロナの治療薬と同じく、未だ、決め手となる特効薬(方策)は見出せません。しかし、今後も懲りずに根気よく、協議検討を加えて行く予定です。

マキノ支部

もしかして『住民自治協議会』が救世主と成り得るかも?! (雑感)

全国的に人口減少と少子高齢化が加速し、今後益々地域経済、市民生活、地域コミュニティなど、あらゆる分野に影響をきたすことは明らかです。

そうしたことから弱体化している地域コミュニティを立て直すため、将来にわたって持続可能な地域づくりを進めるための新たな仕組み作りを目指して、市内全域に『住民自治協議会』が設立される運びとなっております。

一方、老人クラブの現状と言えば、高齢人口が増加する中においても、衰退の一途にあり、歯止めとなる特効薬が見つからないのが現状です。

正に孤城落日と言えます。 辿れば、全国老人クラブ連合会が、三大運動「健康・友愛・奉仕」を掲げ、昭和37年に結成されたのを受け、順次、県市町村に連合会を結成、高度成長期にあつて明るく豊かで活力のある超高齢社会の実現に向け取り組みを続けられ、今日の繁栄に貢献されてきました。

半世紀以上経った現在では、当時とは生活様式・経済社会構造の著しい変化があり、個人の意識・趣味嗜好にまで変化をもたらした上に、身近な存在として、シルバー人材センターや社会福祉協議会等の活動が高齢者の受け皿となり、そのために老人クラブの必要性も希薄化したように思います。



社会奉仕の日・清掃作業

もちろん私見に過ぎませんが、老人クラブを往時の賑やかで、活力ある組織に再興する事は至難の業であり、又、必要も無いと考えます。

一方、少子高齢化と人口減少が進む中、市が新たに進める『住民自治の仕組みづくり』には、多数を占める老人のパワーをもってこの施策に貢献するの
でなければ、この施策も『有名無実』に終わり兼ねません。

老人を必要とされる場がここにはあるはずですが、時代の変化に
あなねば成りません。

蛭川老人クラブ「豊友会」は、マキノ支部の灯を消さないために高島市連合会に加入して頑張っています。

今こそ、全ての地域に灯を灯し、自治を照らすために結集しようではありませんか。

高島市におけるこれからの老人クラブは、「健康・友愛・奉仕」に取り組んで来たこれまでの全国三大運動を福祉推進委員会等の活動に委ねる事として、これからは、『住民自治の仕組みづくり』が成功するための活動に舵を切り、コロナ禍における不要な移動を控えねばならない今だからこそ、自治のため後世のために切磋琢磨することを運動の柱に据えて、従来型の老人クラブは再編成する。

つまり、「高島市老人クラブ連合会」も「高島市住民自治協議会連絡会議」に包括することが、ベストでないにしてもベターではないでしょうか。

この事が叶わなければ、高島市老人クラブ連合会の発展的な存続も望めないのではないのでしょうか。

三方よし

- ※老人 生き甲斐を拓き健康寿命を延伸
- ※集落 持続可能な地域の実現
- ※行政 医療&介護費用削減・地域コミュニティの振興を達成

今津支部

コロナ禍での行事について

令和2年は、新型コロナウイルス感染症で明け暮れた一年でした。この一年の事業活動はどうなのか心配でした。

しかし、年度当初の会議などは、取りやめましたが、7月下旬に単位クラブ長会議を開催し、協議の結果、グラウンドゴルフ大会、友愛訪問、お楽しみ会の各事業を計画どおり実施することになりました。

特に、「三密」を回避し、感染予防対策を講じながら計画どおり実施しました。

12月に同時開催をした、第二成人式、お楽しみ会は、屋内での開催のため、参加者を例年の半分程度にしました。そのうち、お楽しみ会は皆が声を出すことを回避し、腹話術とマジックにしました。

初めての内容でありましたが、参加者には好評であったと思っております。



腹話術とマジック

今後、コロナ禍がいつ終息するのかわかりませんが、コロナを理由にして老人クラブ活動が鈍ることのないよう、工夫をし、推進して行きたいと考えています。

安曇川支部

一人暮らしの高齢者の慰問

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、不要不急の外出を控えるよう求められている今の世の中、私達の安曇川支部青柳延命会も令和2年度の各部会の活動計画が新たな年度の一步を踏み出しました。しかし、コロナ感染防止のため各部会共に行事が中止や延期になり、活動の妨げとなる状況になりつつあります。

でも本年度も『一人暮らしの訪問』を去る5月15日に友愛の方と2人で青柳区在住の4人の方宅を訪ねて回りました。一寸した手土産を持って、マスク装着の上『三密』を避けて回りました。玄関ではお互いに間隔を控えての簡単な挨拶をしましたが、突然の訪問でしたが愛想よく出迎えていただきました。身体も達者な様子で日々を健やかに過ごされていることを伺い知り安心いたしました。

十分なことはできませんが、次回はコロナウイルス感染縮小に至って解除され、マスクを着けないうで話や冗談が交わせる出会いであるよう願っています。

朽木支部

コロナ禍の中で!

集まってはいいけません”という日常は、はじめての経験の中で、老人クラブの活動(だけではないけれども)はどうしたらよいのか迷っているうちに、今年度が終わろうとしています。

役員と相談しながら、問題のなさそうな事業を

実施して来ましたが、このような状況が続くとすると、いつまでも今までのことの継続だけでは、さらに老人クラブ活動の低迷に繋がってしまうのではないかと心配です。

コロナ拡大の中で、義母が93歳で亡くなった。それまでは毎日出かけていたところが閉鎖になり、一日中家でテレビを見る毎日となって以後、気力も体力も目に見えて衰えて元気がなくなっていくた。

こうしたことをそばで見ている、やはり「人に会う・話す・行きたいところへ行く・やりたいことがある」ということが、高齢者にはとても大切なことであるように感じました。

老人クラブ活動が低迷していることや、コロナ拡大の中であることも併せて、これからの老人クラブのあり方を一緒に考えましょう。

高島支部

コロナ禍の昨年を振り返って!

昨年の『新語・流行語大賞』の年間大賞に決定した『三密』をはじめ、『アベノマスク』『Go To O O』『アマビエ』『ソーシャルディスタンス』等々の『新語・流行語』が巷に氾濫し、各種団体等の行事計画が止む無く中止に至った大変な一年でした。

当高島支部も会員皆さんの「リスク回避」と「安心・安全」を確保するべく、当初計画していた事業のほとんどを実施することが出来ませんでした。

その中でも、実施できた主な事業を列記します。

◎「敬老の日」を前にして、「米寿」「金婚」をお祝いする記念の「盾」を「米寿」は7名に「金婚」は2組と6名に贈呈しました。

◎「敬老の日」には長寿をお祝いし、記念の「紅白饅頭」を贈呈しました。

(会員の皆さんに大変喜んで頂きました……)

◎10月18日(日)の午前中に「伊黒グラウンド」(旧高島町立第三小学校運動場)でグラウンドゴルフ大会を開催しました。当日は最近諸般の事情で当支部を退会された地区の方が4名(男女各2名)も参加され、総勢30名で24H(12H×2回)を和気あいあいと大いに親睦を深めました。

「新型コロナウィルス」が

一刻も早く終息して欲しいものです。

編集後記

社会情勢の著しい変化や少子高齢化の進展で、人口構造・生活スタイル等が大きく変化しています。本年は特に、全世界に蔓延している「新型コロナウィルス感染症」の感染拡大による自粛制限により、満足な活動が出来ない事態に陥っています。

このような社会危機にあっても、住民意識は変わらず、高齢者は自身で、若者に頼らない老後の生き方、過ごし方を考えなければならぬ事に変わりはありません。

こうした社会情勢の中、元気に生き抜くには、地域でのお互いの助け合いや支え合い、そして仲間づくりが大変重要なことです。

「平成」という時代に幕を閉じ、「令和」という新しい時代に入りました。しかし、少子高齢化は止まることはありません。特に、地方での生活には、仲間同士の支えあいが必要で、是非とも「老人クラブ」にご入会頂き、残された人生、共に楽しく暮らして行こうではありませんか!そして、新しい時代を共に生きようではありませんか!

市内高齢者の皆さまの、ご入会を心よりお待ちしております。

(事務局)